

1. 評価結果概要表

作成日 2007年12月2日

【評価実施概要】

事業所番号	0870100534		
法人名	有限会社 アサミ		
事業所名	グループホーム アサミ園		
所在地 (電話番号)	茨城県水戸市住吉町60番地		(電話)029-247-0549

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年3月18日

【情報提供票より】(19年10月19日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10 年 7 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 6.3 人	

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築 /改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	80,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	800 円
	夕食	800 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	9 名	男性	5 名	女性	4 名
要介護1	1 名	要介護2		3 名	
要介護3	1 名	要介護4		3 名	
要介護5	1 名	要支援2			名
年齢	平均 83.5 歳	最低 67 歳		最高 94 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みと南ヶ丘病院、いばらき診療所こづる
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中に位置する当ホームは、近隣に豊富な社会資源を有している。ケアハウスやデイサービスセンター、介護老人福祉施設等のさまざまな機関と有機的な連携をはかり、また、協力医療機関から全面的なサポートを得て、利用者の実情やニーズに対して、細やかな対応をしている。ホームには熱意あふるる職員が、「血のつながらない家族」として思いやり深いケアに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価における改善事項等を、ケアの質の向上を図るための貴重な材料という位置づけ、全職員で検討を行っている。また、評価結果は職員全員が目を通し、また、運営推進会議においても報告を行い、多角的に検討を行なっている。さらに、外部評価の結果は利用者のご家族にも郵送して開示している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価の実施から、さらにあるケアの質の向上に取り組んでいる。評価結果は職員全員が目を通し、また、運営推進会議においても報告を行い、多角的に検討を行なっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、隔月ごとに実施されている。事業所の運営に関係する利用者やその家族、行政機関や関係機関の方が出席している。外部評価の結果に対する議論をはじめ、事業所のケアの質の向上にむけた会議の運用が押し進められている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に対し直接、あるいは電子メールや郵送にて、利用者の生活やケアの実際について報告を行なっている。時には、写真をお渡ししたり、利用者の受診に付き添いをお願いするなどして、利用者や家族の橋渡しの役割を担うこともある。利用者や家族からの意見や要望が聞かれた場合、その都度、懇切丁寧に対応すると同時に、詳細に記録を残している。また、ホーム側から積極的に意見や要望を吸い上げられるよう声かけを行なっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。近隣のお祭りへの参加や、他事業者の行事等に積極的に参加し、地域との交流を深めている。近隣の福祉関連事業所との交流は活発に行なわれている。今後は、それ以外の地域住民や諸団体とのつき合いの活発化が期待される。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に根ざしたケア事業所となるために、運営理念と介護理念をわかりやすく整理している。その内容は、職員のみならず利用者やその家族も常日項目にすることが出来るように、玄関先等に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は入社時に、理念が明記されたカードを手渡される。職員がいつでも理念に即してケアにあたれるよう、意識付けが行なわれている。また、必要に応じて理念の見直しや確認も行なわれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。近隣のお祭りへの参加や、他事業者の行事等に積極的に参加し、地域との交流を深めている。		近隣の福祉関連事業所との交流は活発に行なわれている。今後は、それ以外の地域住民や諸団体とのつき合いの活発化が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価および自己評価を通して、ケアの質の向上に取り組んでいる。評価結果は職員全員が目を通し、また、運営推進会議においても報告を行い、多角的に検討を行なっている。さらに、外部評価の結果は利用者のご家族にも郵送して開示している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、隔月ごとに実施されている。事業所の運営に関係する利用者やその家族、行政機関や関係機関の方が出席して。外部評価の結果に対する議論をはじめ、事業所のケアの質の向上にむけた会議の運用が押し進められている。		

茨城県 グループホームアサミ園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは、市町村とのネットワークの構築と、有機的な連携の維持に努めている。特に、ホーム側の実情を理解してもらうために、市町村側に見学をすすめるとともに、時には実際に利用者と昼食を一緒にとってもらうなど、具体的ななかかわりを展開している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	直接、あるいは電子メールや郵送にて、ホームでの利用者の生活やケアの実際について報告を行なっている。時には、写真をお渡ししたり、利用者の受診に付き添いをお願いするなどして、利用者と家族の橋渡しの役割を担うこともある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望が聞かれた場合、その都度、懇切丁寧に対応すると同時に、詳細に記録を残している。また、ホーム側から積極的に意見や要望を吸い上げられるよう声かけを行なっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員はケアに従事するに際し、認知症の理解や対応について十分な勉強をつみ、可能な限り、なじみのある関係作りに努めている。仮に職員の移動等が生じた場合は、利用者には精神的な負担をかけぬよう十分な配慮を行なっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	3ヶ月に1回の頻度で研修参加を確保し、職員の育成を行なっている。また、スーパービジョンや、ケアプランのモニタリングの機会等を通じて、職員の力量の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームとの交流は積極的に行なわれている。事業所間で情報交換に努め、時には合同で研修会を実施している。同業者との交流は、職員の質の向上に直結していると明確に位置づけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規入居希望者が馴染みながらホームを利用できるように、随時の見学対応や、体験入所の案内を行っている。また、協力医療機関のソーシャルワーカーの連携を得て、医療に関する支援の充実化を図っている。必要に応じて面談や調整を行い、とかく利用者および家族が安心して利用できるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と利用者は、擬似家族であり、共に生活を営む仲間であるという意識を持って支援を行っている。そのために必要な利用者ひとりひとりの生育歴や生活技能、その他諸々の情報収集は、常時怠らない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりが希望する活動、望むことを傾聴して対応するとともに、職員側から積極的に投げかけも行っている。本人の意向を第一優先に考え、支援のあり方を検討をしている。汲み取った意向は、フェイスシート等に記録して整理している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃収集している利用者ひとりひとりの生活情報や意向等を素材に、利用者や家族の意見や確認をとりながら、利用者本位のケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回実施の全体会議や、毎日のミーティング(申し送り)等の機会において介護計画の見直しを行っている。モニタリング用紙を活用した上で、職員がその状況を把握しやすいよう別紙でまとめるなどの工夫も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣に設置されているグループホームやデイサービスセンター、ケアハウスや介護老人福祉施設等と交流や連携、情報交換等を行い、利用者の希望や必要性に応じての柔軟な対応が可能なネットワークが構築されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者への医療に関する相談、指示、または受診対応が可能な体制は24時間(常時)整備されている。医師の往診や訪問看護の適切な対応によって、医療連携が図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期におけるケアの方針の整備や、それへの同意書などが整っている。また、関連する事業所との対応方法についても整備されている。		ターミナルケアの実施体制が整備されているが、その対象者が複数同時に発生した場合、何をどこまで提供できるのか(実施できるのか)について、今後検討する必要があると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者ひとりひとりの個人情報の保護、プライバシーへの配慮は全職員、徹底している。ケース記録等の保管も問題ない。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活空間に対しては、ゆったりとした雰囲気作りを心がけている。また、アクティビティケアを積極的に取り入れ、利用者ひとりひとりに即した「その人らしい」暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂テーブルの上の観葉植物やBGMの配慮、利用者も職員も分け隔てない楽しい会話など、食事を楽しめる工夫がさりげなく実施されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者への医療上の問題で、現在は夜間入浴が控えられている。しかしながら、基本的には利用者の希望や要望にあわせて自由に入浴を提供できる体制となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個室の仏壇のお給仕、掃除、家事、または配膳やアクティビティケアへの参加等、利用者一人ひとりに役割があり、楽しみごとがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の家族の協力を得て、外出支援がなされている。また、各種行事への意欲的な参加もなされている。しかしながら、個別の外出支援の実施が少なくなってきた。	○	近隣の散歩等、日常的な外出支援の実施について、検討されることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上の理由により、夜間帯のみ正面玄関や浴室の施錠を行っている。日中は、見守り対応によって施錠はしていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練や消火訓練等を実施し、地域の方にも参加や協力をお願いしている。また、災害時には近隣の事業所と協力体制をとる手はずとなっている。		災害時に備えた対応について、概ねの青写真ができてはいるが、今後は、水や食糧の備蓄について等、具体的な内容について検討されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者は全員定期的に血液検査を実施し、その結果をもとに利用者ひとりひとりの実情にあわせた栄養摂取や水分補給等を計画して支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、ホールを中心に四季折々の花々、手入れの行き届いた観葉植物や各種作品の展示、インテリア等が飾られている。また、必要に応じてBGMが流されるなど、居心地のよい空間づくりが推し進められている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は入居に際し、なじみをもった家具や使い慣れたものを自由に持ち込んでいる。利用者一人ひとりの趣味や嗜好、希望や要望に即した居室の環境整備が行われている。		